

生薬「芍薬」生産を目的としたシャクヤク薬用・切り花兼用品種の選定

利用対象：植木生産者、薬用作物栽培希望者

【背景と目的】
 高齢化社会の進展に伴い、需要量の増大が予想される漢方薬原料生薬について、安定確保に向けた国内生産体制の構築が求められています。
 そこで、県北勢地域黒ボク地帯でのシャクヤク生薬栽培を想定し、入手が容易で切り花利用が可能な兼用品種を選定し、生産拡大を目指します。
 切り花用シャクヤク 10 品種について生薬成分（ペオニフロリン）と、収量性の比較を行いました。

生薬成分（ペオニフロリン）含有率と地下部重量増加比を乗じた値が薬用専用品種「北宰相」より大きい「プレジデントウィルソン」、「滝の粧」、「ラテンドール」、「夕映」、「ファーストレディ」の 5 品種を有望品種として選定しました。
 平成 27 年度に選定した「春の粧」、「卯月の雪」、「華燭の典」と合わせて 8 品種を有望品種として選定しました。

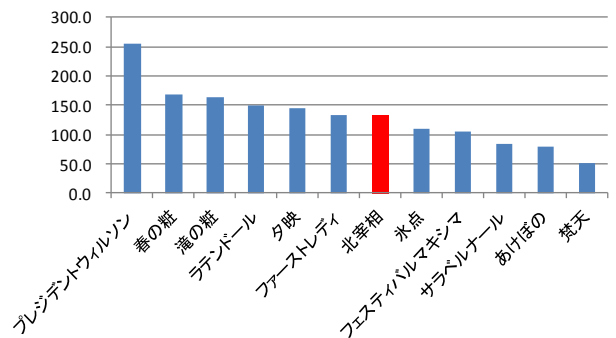
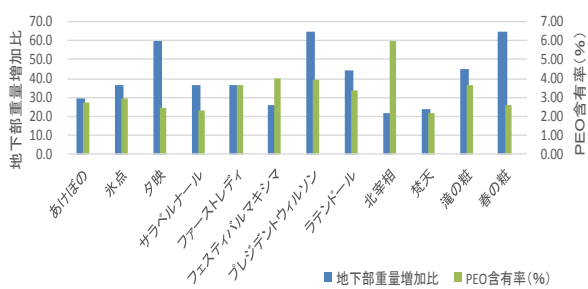


図 1. 露地栽培 4 年目の品種別地下部重量増加比及び PEO 含有率 図 2. 品種別地下部重量増加比と PEO 含有率の積



ペオニフロリンとは：シャクヤクの生薬としての有効成分で、日本薬局方（生薬としての品質基準）では、2.0%以上と定められています。

お問い合わせ先	茶業・花植木研究室 花植木研究課 小林 泰子、内山 達也 電話 059-370-4977 中央農業改良普及センター 長谷川 治基 電話 0598-42-6705
参考になる資料	http://www.pref.mie.lg.jp/nougi/hp/74882027005.htm 「薬用シャクヤク栽培マニュアル」 http://yakusankyo-n.org/data/manual/015.pdf